

水道事業の 持続面の課題への対応

秦野市水道事業の抱える課題①

「安心」・・・課題 1 水質管理及び監視の強化

「安定」・・・課題 2 水道施設の劣化

課題 3 耐震管路の整備の遅れ

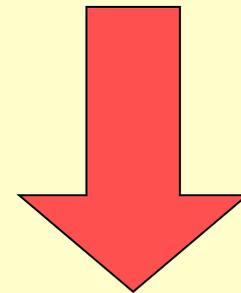
課題 4 震災など非常時に対する水道施設の
対応の遅れ

「持続」・・・課題 5 2年連続赤字決算

課題 6 未収金への対応

課題 7 県水受水費の負担

課題 8 経営の効率化



施設整備計画

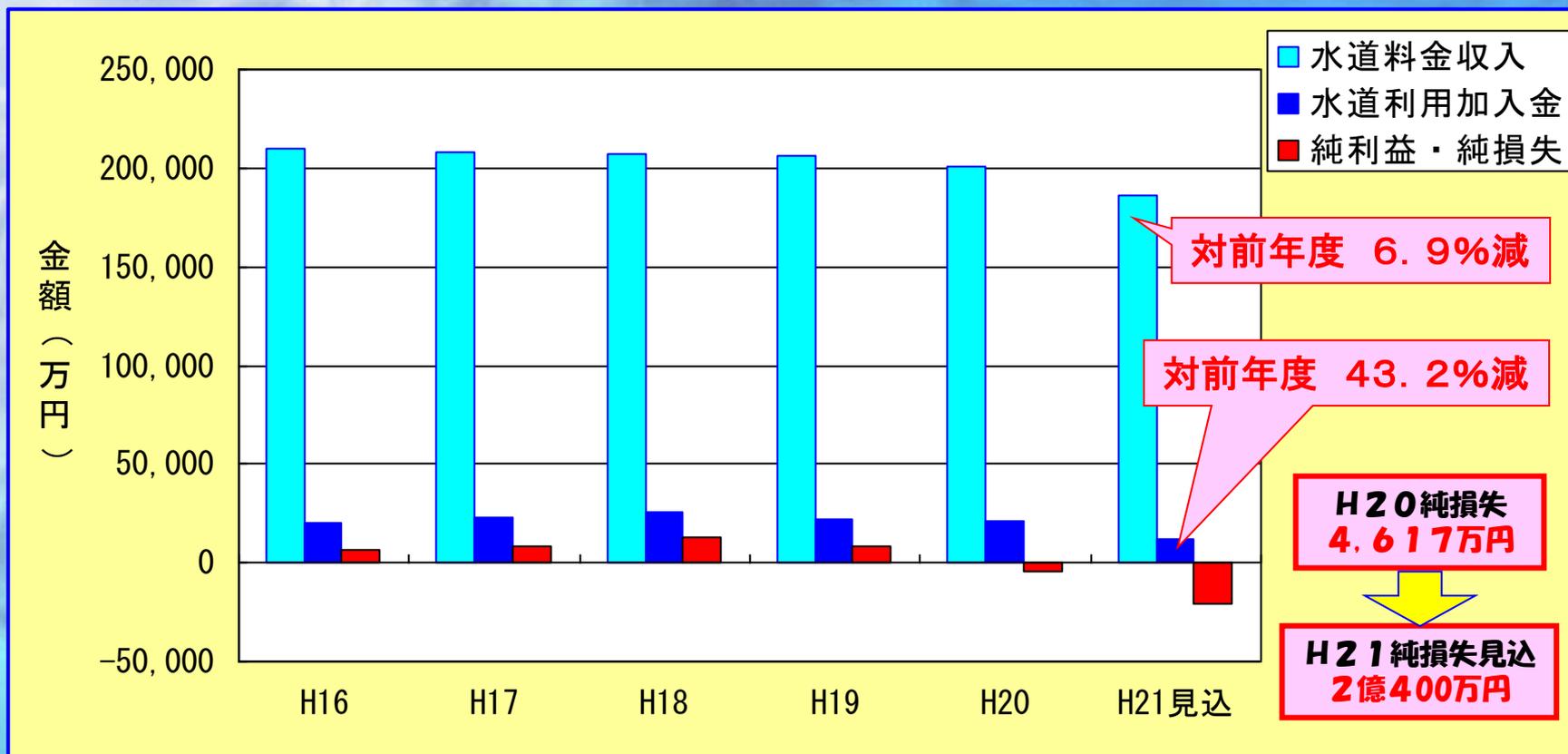
秦野市水道事業の抱える課題②

- 「**持続**」・・・課題 5 2年連続赤字決算
課題 6 未収金への対応
課題 7 県水受水費の負担
課題 8 経営の効率化

課題5 2年連続赤字決算

持続の
ために

水道料金と水道利用加入金、 純利益・純損失の推移



課題5 2年連続赤字決算への対応

「おいしい秦野の水をいつまでも」



持続
のため

- ① 先人の安全な水への情熱・思いを次世代に引き継ぐ。
- ② 2年連続となった赤字決算の原因を解決し、安定した経営基盤のもと、計画的に施設整備を進めることは、ライフラインの使命である。

将来を見据えた、適正な水道料金のあり方を検討



「持続」・課題 6 未収金への対応

課題 8 経営の効率化

水道事業の各業務をまとめて第三者(他の水道事業者や民間事業者)に委託 = 包括委託 を導入

先に導入している事業者の事例

未収金の徴収率の向上に加え、窓口サービスの質の向上、電算システムの委託による業務の効率化と経費削減などの効果が見られる。

さらに、この包括委託の中で、コンビニ収納を合わせて実施すれば、納付窓口の拡大といったサービスの向上や、さらなる徴収率の向上も図れる。

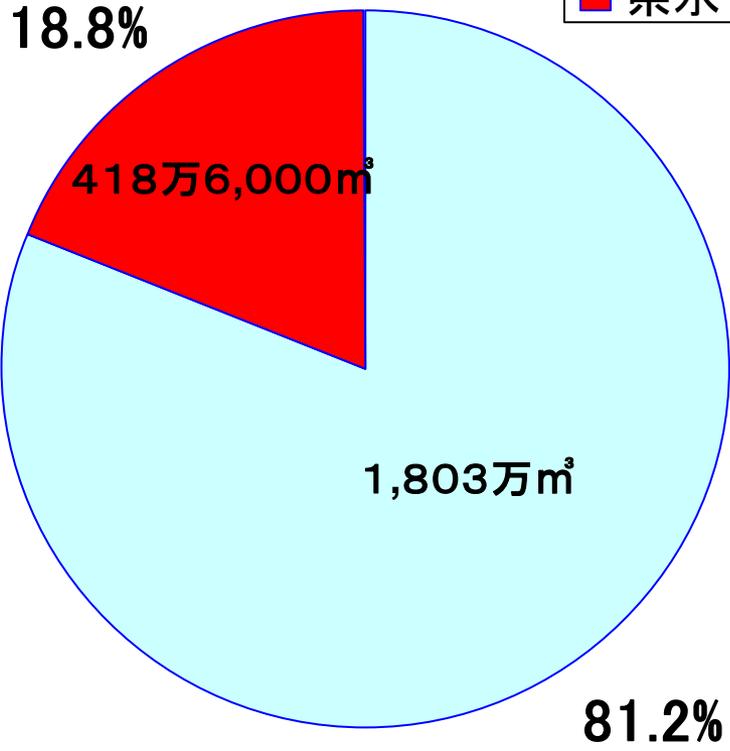
「経営の効率化」等として、このほか、人件費の削減として、今後、定年退職する現場作業員は、補充しないものとする。

平成21年度 県水受水の状況

全体の給水量に占める
自己水・県水受水比率

2,221万6,000m³

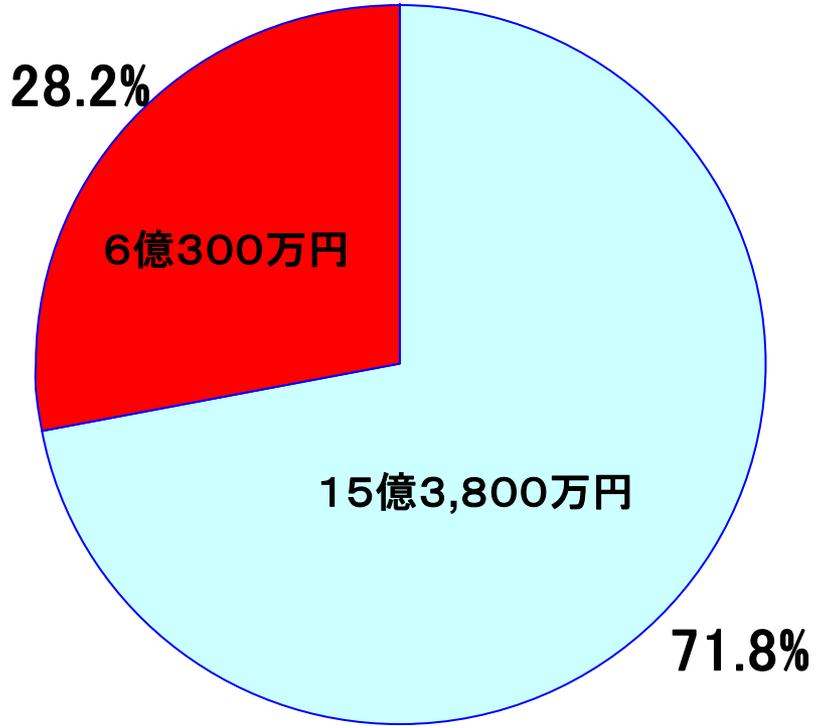
- 自己水
- 県水



営業費用における県水受水費の割合

- 県水受水費を除く営業費用決算見込
- 県水受水費

21億4,100万円



「持続」・・・課題7 県水受水費の負担への対応

災害などで自己水が不足しても、必要な水量が確保できるよう、引き続き県水の受水は、必要である。

責任水量制による基本料金の負担は、継続せざるを得ない。

引き続き、本市と同じ状況にある座間市と連携し、県企業庁を通じて、県内広域水道企業団の経営努力を促し、負担軽減などを働きかけていきたい。

秦野市水道事業の抱える課題

「安心」・・・課題 1 水質管理及び監視の強化

「安定」・・・課題 2 水道施設の劣化

課題 3 耐震管路の整備の遅れ

課題 4 震災など非常時に対する水道施設の
対応の遅れ

「持続」・・・課題 5 2年連続赤字決算

課題 6 未収金への対応

課題 7 県水受水費の負担

課題 8 経営の効率化